

めぐりつと紫波

発行者 NPO法人紫波みらい研究所
TEL 019-671-2244 FAX 019-671-2243
E-mail miraikenshiwa-mirai.com

東北地方太平洋沖地震

お見舞い申し上げます。

このたびの東北地方太平洋沖地震におきまして、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りし、また甚大な被害に遭われました皆さま方には心よりお見舞いを申し上げます。ニュースで被災地および各地の被害の実態が明らかになるたびにその被害の大きさに心が痛みます。

被災地ではまだまだ不安な時を過ごされている方々がいらっしゃいます。どうかこれ以上被害が拡がりませんよう、そして一日も早い復旧を願ってやみません。

私たちもできることからしっかりやっていき、今、頑張っておられる皆さま方とともに助け合っていきたいと思えます。

野外エコスクール 雪で遊ぼう！を開催しました。

紫波みらい研究所では、2月20日(日)野外エコスクールをビューガーデンで開催しました。参加者親子19人、スタッフ10人。ビューガーデンさんには、場所を解放していただいただけでなく、駐車場も除雪していただきました。

まずは、11日にスタッフが作った滑り台を使い、そりやゴムチューブで滑ってみました。少し雪が不安定で滑りが悪いです。そこで、秘密兵器の肥料袋の出番です。大人も童心に戻り、滑りを楽しんでいます。

その横では、保護者にも楽しんでいただこうと昔の遊び「陣取り」が始まりました。渦巻きを作り、渦巻きの中心とはじから同時に走ります。出会ったところでじゃんけんをするのですが、雪に足を取られ、思うように前に進みません。もしかすると、ふだんの運動不足もあるかもしれません。次は子どもたちの番です。こちらは、大人より上手に走っています。年長の子もたちが小さい子どもたちにやり方を教えています。昔の光景を思い出しました。

走ってのどが渴いたころ、おやつのココアとマシュマロを準備。サプライズのポップコーンも登場！マシュマロは、木こりのキャンドルで焼いて熱々をほおばりました。

続いてのお楽しみは、雪合戦です。雪の壁を作

り、二手に分かれプレー。大会さながらの実戦！その後、ビューガーデンの原野で動物の足跡を探し、いわて森林インストラクターの川村氏に動物の生態のレクチャーを受けました。

エコスクールは、小学生を対象とし、本研究所が紫波町から委託を受け、毎月1回環境・循環PRセンターで開催している環境学習体験事業です。今回は、野外に飛び出しました。来年度も予定していますので、お楽しみに！



親子でそりすべり



木こりのキャンドル



走って倒れる参加者



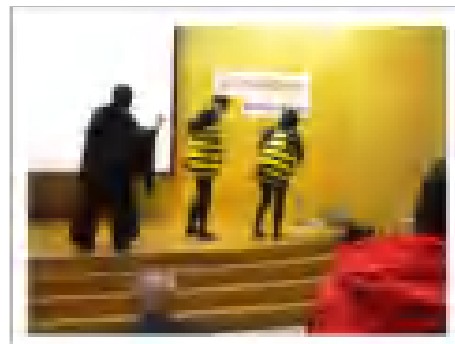
ゴムチューブで遊ぶ

ニホンミツバチの可能性を知る！開催

3月6日(日)紫波総合高校において、紫波町ニホンミツバチを考える会主催のニホンミツバチの可能性を知るセミナーを開催しました。

参加者が80人と関心の高さが伺えました。長野県富士見高校の養蜂部「ハッチ・bee・8」の活動発表と寸劇、玉川大学ミツバチ科学研究センター中村教授の貴重なお話を聞くことがで

きました。考える会では、セミナーを参考に、みつばちがどんな生き物で、地域の中でどんな役割を果たすかを知ることから考えていくつもりです。

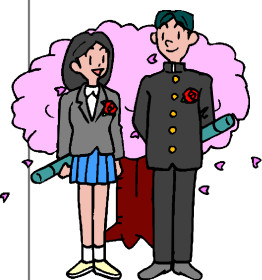


行雲流水(16)

春が来た

春が来た、春が来た、跽音軽やかに春が来た。ひなたにバツケ(露の臺)が芽を出して、かたくりの蕾もふくらんで、まんさくの花も満開で。そしてそして、また桜のときがやってくる。コンクリートジャングルなどでない、里山に暮らす悦びを、爆発させるときが来た。テレビの画面も新聞も、毎日毎日心の痛むことばかり。腹が立つてならぬことばかり。この日本は、農村は、一体どうなっていくのだろう。それでもそれでも里には花咲く美しいときが来る。「行雲流水」、雲は行き、水は流れる。子どもの頃、川の流れの絵に添えられた、こんな言葉が常居(じょうい)居間(いま)の壁に掛かっていたつけ。「岩もある木の根もあるをさらさらと、たださらさらと水の流るる」この欄「行雲流水」は今号で終了。これまでこの欄に目を留めてくださった数々の方々に心から感謝。新年度、次号から新しい企画、その成功を祈りつつ、「またどこかでお会いしましょう」

再見 (三)



ごみ分別一口メモ

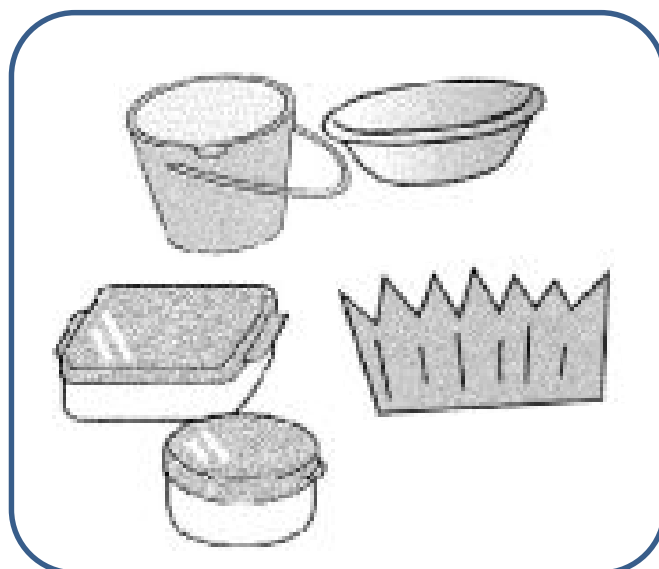
前号に引き続き、プラスチック製容器包装と間違しやすいものを掲載します。プラスチックでできていますが、商品や製品はプラスチック製容器包装には該当しません。

【たとえば、こんなもの】

バケツ・洗面器・弁当や寿司の仕切り用「バラ」や食品保存箱・空き缶・ライターなど

【編集後記】

めぐりっと紫波は、今年度、毎月1回発行してまいりましたが、来年度から隔月発行となります。それに伴い、編集内容も変わります。皆様からのアイディアも受け付けておりますので、今後ともご意見・感想をお待ちしています。



「めぐりっと紫波」は、紫波町環境課からの委託事業で発行しています。